

医政局の行政の目指すもの

医政局総務課長補佐 宮本 直樹

国民が、安全、安心で、質の高い医療を受けられる環境を整備するため、医療を提供する体制の確保を図っていくことが医政局の仕事です。最近の課題を通じて、医政局の行政をご紹介します。

医師不足対策について

近年、一定の地域や産科、小児科などの特定の診療科で病院の医師が確保できないという報道を耳にしたことがあります。日本の医師は、毎年3,500~4,000人ほど増えていますが、今なぜ医師不足と言われるのでしょうか。様々な原因が考えられますが、その原因の一つとして、従来は、大学病院の医学部(医局)が中心となって、地域の病院が困らないよう医師の配置を行ってききましたが、自由に研修先を選べる臨床研修の仕組みや、国立大学の独立行



政法人化などを契機に、大学の医局の人事を行う機能が十分に働かなくなってきたことがあげられます。この結果、地域の中に医師を多く集めることができる病院とそうでない病院が生じてきたのです。こうした問題を解決するため、都道府県が中心になって、大学の医学部や医師の集まる病院から、医師を必要とする病院に医師が配置されるよう、関係者間の調整を行う仕組みの構築を進めています。また、医師の集まる拠点病院

づくりなど都道府県等が行う医師確保のための様々な取り組みを積極的に支援し、総合的な対策を講じていきます。

医療連携の推進について

医師等の医療従事者や病院等の医療機関、高度な医療機器等の医療資源は、多くのコストを要するものであり、限られた貴重な社会資源です。こうした限られた資源をできる限り有効に活用し、高度先駆的な医療から、かかりつけ医によ

る身近な医療まで、多様な医療を効率的に提供することが必要です。このためには、個々の医療機関が多様な医療のすべてを提供するのではなく、医療機関ごとに得意とする医療分野(疾病の種類や急性期、慢性期などの医療の段階)をはっきりさせていくことが必要です。これを医療機能の分化といいます。その上で、個々の医療がバラバラに医療を提供するのではなく、お互いに連携を強化しながら、介護等の地域の福祉サービスも含め、切れ目のない医療・福祉サービスが提供されることが求められています。

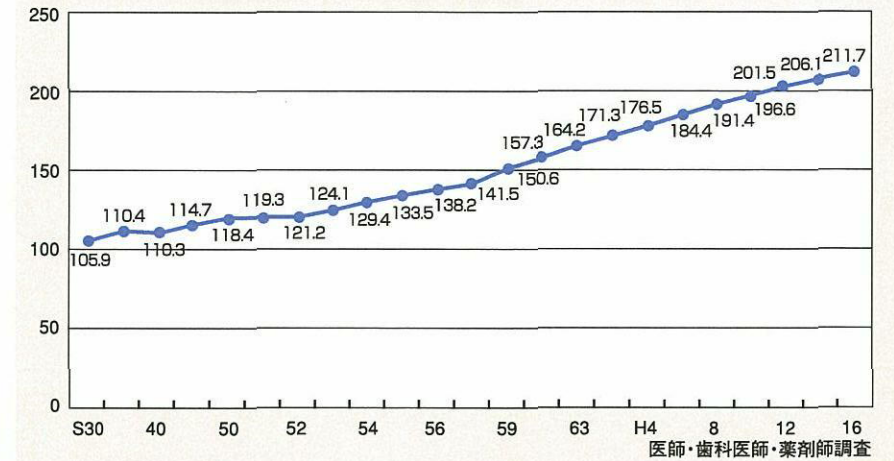
また、できる限り住み慣れた家庭や地域で療養生活が送れるよう、また、終末期を在宅で迎えたいという希望にも対応できるよう、病院と診療所が連携等を図りながら、在宅医療の推進を図っていくことにも重点的に取り組んでいるところです。

医療安全の推進

患者・国民にとって、受ける医療サービスの安全が確保されていることは、何より重要であり、国民の医療安全に対する関心も高まっています。現在、診療行為に関連した死亡等については、死因の調査等を行う専門的な機関は設けられておらず、医療事故等に関する責任等の判断が民事手続や刑事手続に委ねられています。患者や家族にとって納得のいく安全・安心な医療の確保や不幸な事例の発生予防・再発防止等に役立つよう、診療行為に関連した死亡の死因究明を行う専門的な機関の在り方について検討を行っています。

人口10万対医師数の年次推移

- 近年、医師国家試験の合格者は毎年7,600~7,700人程度であり、死亡等を除いても、毎年3,500~4,000人程度増加。(医師数)平成10年 24.9万人 → 平成16年 27.0万人
- 人口10万人対医師数についても毎年増加。



国立病院機構・医薬品産業の振興

以上の他、医政局では、へき地医療や救急医療体制の整備を行うとともに、国立がんセンターなど高度専門医療センターと独立行政法人国立病院機構の146病院による国レベルの高度先駆的な医療等の政策医療を提供しています。

さらに、医薬品産業の市場規模は7.7兆円、医療機器は2.2兆円と我が国の産業において重要な分野となっていま

すが、質の高い医薬品を国民に早く、合理的な価格で提供できるよう、国際的に魅力のある市場規模の実現や我が国の医薬品、医療機器産業の国際競争力の強化のため、産業政策の推進を行っています。

終わりに

安全安心な医療を安定的に提供することは、国民の基本的なニーズに対応するものであり、大変重要な行政分野ですが、少子高齢化の進行や科学技術の進歩などにより、大きな変革期にあります。また、医師の養成など長期的な視点が求められる分野、また、終末期医療の問題など国民の生命の問題に直結する分野もあり、医政局の行政は様々な角度から事象を分析し、深く考え、議論を深めていくことが求められています。これは簡単な仕事ではありませんが、同時に大変やりがいのある仕事です。熱意のある皆さんと共によりに医政行政を考えていければと思っています。

マグネットホスピタルにおける医師派遣機能に関する取組のイメージ

- 大学医学部の医局が従来担っていた地域の医療機関に対して医師を紹介する機能が弱まっている事情がある。
- 大学病院以外に医師を集めることができる魅力的な病院が存在する。

